

弘前大学

学園だより



Vol.201

June 2021
summer

特集

新学期を迎えて



巻頭言 02 / 特集 新学期を迎えて 04 / 研究室紹介 24 / 新任教員紹介 26 / けいじばんコーナー 29 / 編集後記 30

作品名：『観測者の転寝』油彩画 サイズ60×45cm 制作：教育学部学校教育教員養成課程 美術専修 2年 若松 広也

2021年度の新入生の皆さん、ようこそ弘前大学へ！学長として、そして皆さんの先輩として、晴れて大学生となられた皆さんに心からのお祝いを申し上げます。ご入学、誠にありがとうございます。初めての大学入学共通テスト、そしてコロナ禍の下での大学受験という二重の試練を乗り越え、皆さんは弘前大学への合格を勝ち取りました。他の年の受験生が経験したことがない試練を経験し、克服することができた自信は、これからの人生に必ず活かされるはずです。

すでに皆さんの弘前ででの学生生活が始まっていることと思います。大学での授業や新しい友人との出会いを通して、大学生となった自分を少しは実感していることでしょう。市内の新型コロナウイルスの感染状況によって変わる授業形態（対面授業、メディア授業やハイブリッド形式の授業）、アルバイトや課外活動の制限、多人数での飲食の自粛など、新

たなことに十分に挑戦できない大学生活に不自由さを感じているかもしれません。残念ながら、新型コロナウイルス感染症が収束したとしても、数年後の皆さんの日常生活がコロナ前の生活に完全に回帰することはないと言われています。そこで、そんな不確実な未来社会を強く生き抜くために、弘前大学での数年間で皆さんに何を学んで欲しいか、考えてみたいと思います。

最初に、大学生活の中で「真の自分自身を知る」ことを意識して欲しいと思っています。自宅、学校や近場の娯楽施設など限られた空間で、そして家族、友人や学校の先生など限られた人間関係の中で育ってきた皆さんにとって、自分が何を好きで何をしたときに喜びを感じるのか、逆に何が苦手で何をしたときに不快に思うのか、皆さん自身の中で明確になっていないと思うからです。皆さん自身が様々

逆境をともに
乗り越えよう！

弘前大学長
福田 眞作

なことに徹底的に挑戦した先に、「真の自分自身」が明確となり、自然と「なりたい自分、なりたい職業」も見えてくるはずです。キャンパス内での授業や課外活動、地域の人々との交流、そしてアルバイト、ボランティア活動や海外留学など、異なる価値観や考え方と向き合う経験を積み重ねることで、まずは「真の自分自身」を見つけてください。「真の自分自身」を知ることが、この後で述べる変化に適応するための準備にも繋がっていきます。

皆さんが4～6年後に歩みを進める実社会には無数の職業があり、さまざまな思想、多様な価値観や経済観を持った人々とともに社会活動を営むこととなります。大学生活を通して備えたい3つの「能力」について、次に考えてみたいと思います。

1つ目は、「主体的に物事を考え、自ら課題を発見する力」であり、まずはこれまでの受け身の姿勢から脱却しなければなりません。自分自身へ、他者へ、そして目の前の事象に対して、「なぜ」「どうして」「どうすれば」など、たくさんの問いを積み重ねる中で、物事を洞察する眼差しや、社会と積極的に関わっていく姿勢が育まれていくはずです。

2つ目は「困難に挑む力」です。大学は、皆さんがさまざまな経験をして失敗やリスクに負けない胆力を身に付け、社会に出る準備をする場でもあります。大学時代の失敗体験は成功体験と同じくらい皆さんの人間的成長を加速させるはずです。「(皆さんの世代ほど)これまで以上にチャンスがあり、これからの世界を創ることのできる世代はない」、これはバラク・オバマ/第44代アメリカ大統領が、とある大学の卒業式のスピーチで述べた言葉です(Forbes Japan誌「コロナ禍で偉人が残した10のスピーチ」より)。コロナ禍を経験した皆さんの世代なら、これから訪れるさまざまな逆境を踏み台にして、世界をそして未来を創ることができる、そのような強い意志を持って欲しいと訴えたものです。

3つ目は、「受け止め方を変えて適応する力」です。新型コロナウイルスの登場でますます変化の激しい時代が皆さんを待ち受けています。悩みや不安を抱える場面がたくさんあるはずです。どうやってそれを乗り越えていくのか?とても重要です。まずは、「受け止め方を変えろ!」です。目まぐるしい社会の変化に対してアンテナを張ることも大事ですが、目の前の変化に過剰に反応しないことが大切です。そして、事態を冷静に受け止めて、自分が今できることを考えて着実にそれを行動に移す「適応力」を発揮すること

です。適応力を発揮するためには、「自分自身」の弱さ、強さを知り、不安を解消して心の冷静さを保つ術を身につけなければなりません。心の冷静さを保つことができれば、「一番苦しいときが一番成長するとき。乗り越えた先にはより強い自分が待っている!」と前向きに、「何とかなるさ!」と楽観的になれるはずです。有名大学を出て就職すれば安泰…というのは過去の話であり、「どこで学ぶかよりも、何をどう学んだか」で、皆さんは社会から評価されることとなります。以上の3つの「能力」を社会が求めていることを意識しながら、キャンパス内外のさまざまなことに勇気をもって挑戦してください。

さて、入学式でも申し上げましたが、大学の主役は学生の皆さんであり、弘前大学もまた皆さんの存在で成り立っています。そんな皆さんに、大事なお願いがあります。サークル活動にアルバイト、親元を離れての一人暮らしなど、新たなことに挑戦する大学生活では、それに伴い新たな人間関係ができ、時にはその人間関係に悩みが生まれることもあります。また、コロナ禍による経済的な悩みやネット被害など、自身で解決できない問題を抱えることがあるかもしれません。特に入学直後には相談できる相手が身近に少ないため、ひとりで悩みを抱えてしまう新入生がいるのではと心配しています。学長直言箱や学内アンケートなどで、無記名で学生の皆さんの悲痛な訴えが私のもとへ届くことがあります。これでは、いま困っているその学生さんご本人に迅速に応えることができません。教職員が、皆さんの悩みや質問に親身にお答えしますので、困っているそのときに、学内の相談窓口を利用してください。理解できないこと、疑問に思ったこと、困っていることを相談する勇気もまた、不確かな未来の社会を生きていく上で絶対に必要です。「まあ、いっか…」と有耶無耶にしたことで後悔したことが、私にもたくさんあります。理解できないこと、知らないことを聞くことは、決して恥ずかしいことではありません。私たち教職員が、皆さんをサポートすることを約束いたします。

最後に、大学生となった今、喜びと同時に忘れてはならないことがあります。今回の結果は皆さん自身の努力の賜物ではありますが、ご家族や恩師をはじめとする関係者の方々の支援があって成り得たものでもあります。貴重な学びの機会を与えてくれた関係者の皆さんへの感謝の気持ちを常に意識し、充実した大学生活を送ってください。



AI時代前夜のキャリア選択と「なんとなく」の効用

人文社会科学部長 飯島裕胤

入学おめでとうございます。授業や基礎ゼミで新入生の澄んだ瞳をみると、今年度は対面授業ができて、本当に良かったと思います。

私は大学入学した頃、背伸びばかりしていました。高校で読まなかった海外小説を広げた電車通学、縁遠かったクラシック音楽をリピート聴きた帰宅後。その他諸々、なぜそうしたのかは分からないのですが、毎日が背伸びでした。今なら何をしたのでしょうか。

思い返すと、少し恥ずかしいものです。原書でスラスラ海外小説を読みこなす強者もいた訳で、キリンと背比べした大学生という感があります。でも、そんな一時期は悪いものではなく、社会人として大変な時でも、頼みにできる愉しみによって「燃料切れ」を起こさずすみます。

さて、「AI時代に私たちはどう生きたらいいのか」という話をよく聞きます。「創造力は人間だけ」と言う人もいますが、そうでもないようです。ITを援用した感染症制御で世界の尊敬を集めるオードリー・タン（唐鳳）氏も、著書で力強く未来を語りますが、一方でAIの創造性にも言及しています（『オードリー・タン：デジタルとAIの未来を語る』プレジデント社、2020年）。

AIに「パターン認識」（これとこれが「だいたい同じ」といった、本来は人間らしい判定）ができるというニュースは衝撃でしたが、これも昔のことです。さまざまな分野の画像診断はもちろん、シンプルだけに奥深い囲碁の世界でも、現代最高の棋士がAIに圧倒されました。芸術においても、高い精神性で多くの人を感動させる曲を書くなど、人間の聖域は侵食されています。

「お笑い選手権にAIが挑戦」というニュースは聞いたことないぞ、とも思うのですが、その思考自体、既に敗者の論理です。そうではなく、AIは道具、サーバントであり、人間は勝つとか負けないとかではなく、使う側、主人であることを考えるべきです。

AIには使われず、使うのだ——そんな仕事をする、家庭を築く、社会参加するために、人文学・社会科学分野にはできることがたくさんあります。デジタルの情報特性を活かし、もっとアートや歴史を生活に近づけるとか、AI普及による世界的所得格差の拡大をみすえて、ベーシックインカムやデジタル課税の社会的合意を目指すとか。シンプルに「人間は主人」と考えれば、できることは次々と思いつかぶはずです。

ところで、私自身は人生を、「なんとなく正しいと思ったことはやってみる」というスタンスで歩んできました。告白しますが、経済学者になったのも、実は「なんとなく」です。

同僚の中には「世界の貧困をなくす」、あるいは「蓄積される富の秘密を解明する」といった高邁な動機から経済学を志した方もいますが、私のきっかけは「大学ではなんとなくやり残した感がある」、「大学院に進めば自分も何かできる気がする」にすぎません。それでも入学して猛勉強すれば、志は後から自然に湧いてくるもので、現在は異分野の研究者と交流しながら楽しく研究しています。

最近のキャリアの考え方では、「将来を意識的に計算して、絞り込んで絞り込んで」組み立てていくようです。一見合理的ですが、行き過ぎは問題です。自分の知らない世界は、最初から切り捨てるからです。AI時代の「前夜」では、切り捨てたものは誰も拾ってくれません。できる可能性を逃します。挑戦した後に分かることもたくさんあるのです（私の場合でいえば、経済学は論文で「自己を表現する」側面もあっておもしろいものだと、大学院で勉強して知りました）。

人文社会科学部に入学された皆さんにとって、「なんとなく正しい」ことに挑戦してみることに、それなりに効用があるのではないかと。可能性に満ちた皆さんの瞳をみて、しきりにそんな気がしています。



自律的・協働的・創造的な 学習者・探究者に

教育学部長 福島裕敏

入学おめでとうございます。そしてようこそ弘前大学へ。

大学入学から2ヶ月が経とうとしています。皆さん、大学生活はいかがでしょう。これまでの高校生活との違いに戸惑いや不安を覚える方も少なくないかもしれません。まず、大学にはそもそもHRというものはありません。ですから、必要な情報は掲示板、HP、メールなどを通じて取得しなければいけません。またその情報をどのようなものとして受け取り、どのように判断・行動すればよいのかを、自分で決めなければなりません。さらに、自分が判断し行動した結果に自分が責任を持たなければならない場面も多々あります。

このような高校と大学との違いは、求める学習者像の違いにあると考えます。それは、「受業者」から「学習者」への転換といえるかもしれません。「勉強」という言葉がありますが、その元々の意味は「無理を強いる」です。つまり、好きか嫌いに問わず、与えられたものを無理してでも、受けるということです。これまで、皆さんは、予め決まっている答えやそこに至る道筋を正確に再現する「受業者」としての振る舞うことが求められていたといえるでしょう。それに対して、大学では、知識や技能を与えるだけでなく、それを自分のものとして意味づけ、それをもとに自分で考え判断し、表現・行動していく「学習者」としての振る舞うことを強く求めています。さらに、四年間の大学生活を通じて、自ら問題を発見し、それを解決していく「探究者」になっていくことが期待されています。

こうした「学習者」「探究者」になっていくために、「自律」「協働」「創造」の三つを大事にして欲しいと思っています。「自律 (autonomy)」とは、自分を取り巻くヒト・モノ・コトとの関わりにおいて、自身の価値観や信念をもとに、自ら (auto) が立てた規範 (nomos) に従って行動していくことです。「協働」とは自分とは異なる人々と同じ目的のために対等な立場で協力して共に働くことです。自分一人ではどのように考え行動していけばよいのか分からない場合も多々あるかと思います。そうした時に、他の人との対話を通じて、自分なりの考えを深めていった

り、自分では考えつかなかった視野をもったりすることが重要です。また、他者との対話を通じて得られた考えや判断は、もはや自分一人のものではなく、「社会的」「公的」なものでもあります。そして「自律」「協働」のプロセスを通じてなされた判断や行動は、「創造」的なものでもあります。というのも、仮に同じ結論・結果に至ったとしても、それらは個別の状況や背景において、異なる人格を有する人々の間で生み出されたものである以上、決して同じ道のりを辿ったものではないからです。

現在も出口が見えない新型コロナウイルス禍は、この間様々なところで指摘されてきた「予測困難な時代」を象徴しているように思います。こうした時代状況において、私たち一人ひとりが、これまで自分たちではどうにもならない、あるいはそれ以外の選択肢はありえないと思っていた所与の現実を批判的に見つめ直し、自分たちの生き方・社会のあり方について考え、選択し、行動していくことが、これまで以上に求められています。是非、皆さんにおかれましては、四年間の大学生活において様々な体験を通じて、新しい自分・他者・社会との出会いを重ねる中で、自律的・協働的・創造的な学習者・探究者として成長して欲しいと思っています。ただし、そうした成長は、直ちに得られるものでもありませんし、こうすればこうなるという定められた道筋がある訳でもありません。やらなければならない課題なども多々あるかもしれませんが、自分にとっての意味や自分なりのペースを大事にしながら、時には迷い悩みつつ、ゆっくりと成長して欲しいと願っています。また大学として、そうした皆さんの成長を、できる限り応援していきたいと思っています。





Society 5.0を目指して

医学部長・医学部医学科長 廣田和美

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。昨年から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、受験勉強においても、かつてない困難を経験されたのではと思います。それに打ち勝って合格されたことは、自信になったと思います。人間は、逆境にあって壁を乗り越えて初めて成長し、乗り越えた人だけに見える世界があります。人生はこの繰り返しですので、今後もどんな困難があっても決して挫けることなく頑張って乗り越えて欲しいと思います。社会においても、停滞しているように見えていながら、実際にはこの1年間で、IoT（Internet of Things [モノのインターネット]）が著しく普及、前進したと思います。IoTの発達により、離れた場所の情報を得たり、離れた場所にあるものの操作をしたり出来るようになったことを皆さんも実感できているのではないのでしょうか。我々の医学領域においても、遠隔医療並びに病院・研究施設連携とネットワーク構築により得られるビッグデータ解析がまさにそれであり、COVID-19禍において、この分野は急速に進んでいます。政府もSociety 5.0を目指して、教育におけるデータサイエンスを必修化しました。内閣府によれば、狩猟社会はSociety 1.0、農耕社会はSociety 2.0、工業社会はSociety 3.0、情報社会はSociety 4.0と定義されており、社会はこのような順序で進化・発展してきたとされています。そしてSociety 5.0は、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」と定義されています。サイバー空間とフィジカル空間の融合にはIoTとAI（人工知能）の活用が挙げられています。我々医学部と附属病院も、遠隔にあるむつ総合病院と高速通信回線で接続し、2月21日～3月1日に遠隔ロボット支援手術の実証実験を行いました。また、附属病院ではAIの一部であ

るDeep learningによる医療安全に関するモデル作りも進めています。さらに、医療ビッグデータ解析のために、昨年新たに医学研究科附属健康未来イノベーションセンター内に「医療データ解析学講座」を設置しました。今後、更に当医学部はSociety 5.0を目指して進みます。世の中は、COVID-19禍にあっても、それに打ち勝つべく前進を続けています。我々も明るい未来を信じて前進しましょう。

さて、今はCOVID-19禍にあり、祭りを楽しむのに制限がありますが、弘前は元々、四季折々に祭り（春：日本一の桜祭り、夏：ねぷた祭り、秋：菊と紅葉祭り、冬：雪燈籠祭り）があり、一年を通して祭を楽しめる土地柄です。また日本一のりんごの産地であり、りんごそのものは勿論、りんごを使ったお菓子、りんごジュース、シールドルなど、美味しいりんごプロダクトが沢山あります。日本酒も豊富ですし、津軽三味線の演奏も味があります。更に弘前には、弘前城、岩木山神社、長勝寺、最勝院五重塔等々の歴史的建造物も多くあります。是非、都会の喧騒を忘れ、自然の豊かさ、弘前の良さと伝統を実感しながら、弘前大学医学部に愛着と誇りを持って、勉学並びに課外活動に勤しんで下さい。





保健学科へようこそ

医学部保健学科長 齋藤陽子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今年是对策を講じながら2年ぶりに入学式で皆さんをお迎えすることができ、大変嬉しく思っています。皆さんは、高校での学習や入学試験においても新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中で努力をされ、その成果として弘前大学へのご入学を果たされたことと思います。心から祝福すると共に敬意を表します。入学時の気持ちを忘れずに、充実した学生生活を送って頂きたいと思ひます。教職員一同、皆さんが卒業時に“弘前大学に入って良かった”と思ってもらえるようにサポートをしたいと思ひています。

新型コロナウイルス感染症の流行は世界中に大きな影響をもたらしましたが、特に医療や教育、介護などの福祉は非常に大きな影響を受けています。皆さんの多くが将来就職するであろう医療施設では、患者さんや職員がウイルスを病院に持ち込まないように、万が一ウイルスが持ち込まれても病院内で感染を拡大させないように、様々な対策を講じています。神経をすり減らしながら対策に当たっているといっても過言ではありません。保健学科学生の皆さんも、医療施設などでの実習を行う関係で、他の学部よりも多くの制約をお願いすることがありますが、実習施設の現状を踏まえ、ご理解とご協力をお願いします。

前期授業が始まってからも、残念ながら一部で休講やメディア授業への変更もされています。可能な限り対面授業が継続できるように私たち教職員も努めますので、皆さんも感染対策の内容とその必要性をよく理解して、感染対策の実践にご協力頂くようお願い致します。部活動やサークル活動にも一定の制約がなされていますが、その趣旨もご理解頂き遵守してください。首都圏の大学と比べると、地方大学の一つである弘前大学は新型コロナウイルス感染症の流行による「新しい生活様式」に則った生活を送るための利点も多いと思ひます。満員電車で通学する必要もありませんし、近隣の豊かな自然で手軽にリフレッシュもできると思ひます。このような利点を生かし、油断することなく、ま

た制約下でも工夫して楽しく意義深い学生生活を送ってくださることを心より希望しています。

保健学科は医療系専門職の教育を行う学科ですので、皆さんはそれぞれの専門職を目指して学業に取り組んでいくことになります。各自が目指す専門職の国家試験を受験するためには、卒業までに必修科目である講義や実習等の単位を沢山取得しなければなりません。国家試験は資格試験であり競争試験ではありませんし、合格率100%を目指し互いに助け合いながら学業に励んでいただきたいと思ひます。また、制約はあるものの、部活動、サークル活動、ボランティア活動など、学業以外の活動へも皆さんの能力を余すところなく発揮し、多くの経験を積み、沢山の思い出を作りたいと思ひます。ぜひ他の専攻や他学部の友人も作り、職種によるアプローチや考え方の違い、また患者さんや一般の方の気持ちも理解できる、広い教養や見識、思いやりの心を身につけていただきたいと思ひます。以前、私と同様に放射線技師養成教育に携わっている他大学の教員から、“保健学科の隣に大学病院があることはとても恵まれていることなですよ。医療従事者の卵である学生にとっては、通学の際に具合が悪い患者さんが通院の様子を見る事も色々なことを学べる貴重な機会なのですよ。”と言われ、この保健学科が恵まれた環境にあることに改めて気づかされたことがあります。自分が健康であると患者様の複雑な気持ちに思い至らないこともありますが、思いやりや想像力も含め、医療職者として必要とされる素養を学生時代に備えていただければ幸いです。

新入生の皆さんの学生生活が実りあるものとなることを祈念し、学科長からの歓迎の言葉とさせていただきます。





新入生の皆さんへ

医学部心理支援科学科長 栗林理人

今年もコロナ禍にあって学生生活を始められた新入生の皆さんは、感染対策でいろいろと制限や制約がある中、どのように大学生活をお過ごしでしょうか。令和3年に入ってからは、急速な変異株の流行により、ゴールデンウィーク前に一部の地域で「緊急事態宣言」が発出されたものの、なかなか新規感染者数が減少しない状況にあり、各地で医療の逼迫した状態で医療崩壊が叫ばれています。そのような中、コロナ禍にあっては国民全体に「我慢と工夫」が求められていると考えて、間違いなさそうです。

それでは、どのように生きていったらいいのでしょうか？

2012年にIPS細胞の発見によりノーベル賞を受賞した山中伸弥先生は、ご自分の著書の中で最初は整形外科の臨床医としてスタートしたものの、力量不足を痛感させられ研究者を目指すようになった経緯を書かれています。そして、これまでの歩みを振り返り、座右の銘として『人生万事塞翁が馬』をあげておられます。

(古代中国の哲学書である「淮南子(えなんじ)」によると、塞翁という人の飼っていた馬が逃げ出したため、人々は塞翁を慰めると塞翁が「これは幸い」と言い、その後、その馬が駿馬と共に帰ってきました。人々がその幸運を祝うと、塞翁は今度「これは災い」と言う。その駿馬に塞翁の子が乗ると、落馬して骨折してしまいました。人々がお見舞いに行くと、塞翁はまた「これは幸い」と言う。人々が首をかしげていると、戦争が起り若者は兵士になりましたが、塞翁の子は怪我をしていなかったため、兵士にならずに済みました)

これは、人生における幸・不幸は予測できないことをあらわす故事です。

このような時代にあって、我々はどのような考え方、価値観を大切にしたらいいのでしょうか？ いくつかご紹介させていただきます。

哲学者である鷲田清一氏は、『しんがりの思想』(角川新書)の中で、次のように述べています。一日本はこれから先進国のなかでいち早く巨大規模での《人口減少》という事態に向きあっていくことになる。「右

肩下がり」の時代は、社会がまともになっていくためには悪いことではない。「右肩上がり」の時代には次は何を手に入れようかと考えていたわけだが、右に下がってゆく時代には何を最初にあきらめるべきかを考えざるをえない。絶対に手放してはならないものと、あればよいけどなくてもよいものと、端的になくてもよいものと、絶対にあってはならないもの、これら4段階の《価値》の遠近法にもとづいて、優先順位というものをいやでもつねに頭に入れつつ、社会運営にあたらねばならないのである。—

また、日本創生会議座長を務め『地方消滅』(中公新書)をまとめられた増田寛也氏は、「人口減少」という問題を「慢性疾患」のようなもので、簡単には治らないが、体質改善が早期であればあるほど、効果が上がると述べた上で、「選択と集中」の考え方を徹底し、人口減少という現実在即して最も有効な対象に投資と施策を集中することが重要と主張しています。

もっと身近なところでは、「こんまり」こと近藤麻理恵さんによると、片付けの極意は「目的は処分するモノを選ぶのではなく、残すモノを選ぶこと」であり、そのためには一つ一つ必ず手に取り、触れてみて「ときめき」を感じるようなら残すモノだ、とのこと。

以上より、新入生の皆さんには、総合大学であるこの弘前大学に在学中、様々な人、考え、物と出会い、時には真剣に向き合い、1つでも多くの「ときめき」を感じる体験ができるように願っています。そして、皆さんがきっと大学在学中にこれから生きていく人生に役立つ糧、指針、生きたことばに出会えると信じています。





新入生のみなさんへ2021

理工学部長 佐藤裕之

新入生のみなさん、入学・進学おめでとうございます。昨年からの感染症拡大の影響を受けて、大学の授業の有り様までもが影響を受けています。新入生のみなさんの大学生活のスタートは、期待通りになっているでしょうか。

みなさんは、大学に入学するために様々な準備をしてこられたと思います。準備のための勉強・学習の第一の目的は大学に入学するためのことであったとは思いますが、高等学校までに学習しておくべきことがらを身につけるための学習の動機にもなっていたことと思います。大学での学修の準備を整えたみなさんが、本学で専門分野の力を身につけてくださることを期待しています。

大学での学習を進めるにつれて、あることごとについて高等学校ではあのように教えてもらったけれど、大学の授業では別のことのように教えている、と感じることがあるだろうと思います。入学前にはとても細かいことまで気を遣って勉強してきたのに、大学ではなんといい加減な、と思うこともあるかもしれません。世の中にはとてつもない量の知識と見識の積み重ねがあり、世代を超えて蓄積されてきた体系の数は数え切れません。学問や技術の体系のひとつひとつに積み重ねられてきた伝統と習慣があります。一人の人間が経験し身につけることができる体系の数は限られていますから、比較しながら理解を深めてゆく機会を得るのはなかなか大変なことなのですが、横断的に体系の間を覗いて見ると、同じことがらが別の表現で整理されていることに気づくことがあります。どれか一つだけが正しいということではなく、それぞれの体系の中で表現のしかたが異なっていると受け止めるのがよいのかなと私は思っています。

さて、大学に入るための準備として学習してきた高等学校までの課程は、さまざまな体系を学ぶための基礎になるものなのですが、異なる多くの体系を学ぶための共通の課程とするために、さまざまな工夫がなされています。工夫の結果として、ある学問の体系の専門家から見たときに、高等学校の課程で使われている

表現が必ずしも専門家が使う表現と同じではないということが起こってきます。高等学校でみなさんが学習してきた表現と、専門家の使う表現は、どちらが正しいのでしょうか。大学入学の準備をするための学習では、答えは明白、正しい表現は高等学校の課程で使われている表現のほかにはありません。一方、専門の課程では、入学前に身につけた表現の約束は、空しい約束でしかなかったりもするのです。

少し細かい例になってしまいますが、具体的な例を示してみようと思います。多くのみなさんは、 $0.123\text{km}=123\text{m}$ という式を正しい式として受け入れて下さると思います。長さや質量など生活の中にも現れる物理量が、数値と単位からできていることの理解を共有していれば、正しい式としての理解も共有することができます。この式と似た関係を文字式として表現したいときには、たとえば $L \text{ (km)} = L \times 10^3 \text{ (m)}$ という表現が可能です。数値となるべき部分と単位とを混同しないように、単位をカッコで括って表現しているのですが、このかっちは、高校の教科書では () を、国際的な規格では [] を使うことになっています。一見どちらでもよいことのようにも見えますが、様々な体系の共通の基礎となる教育課程で使われる教材では、多様な体系の一つである理工学分野の約束に倣うことをあえて避けているように、私には思われます。繰り返しになりますが、どちらかが正しくないということではありません。

高等学校で学習してきた基礎を大切にしながら、大胆に新しい学問体系の世界に飛び込んでください。専門課程の学修の中で、多くの体系の共通の基礎となるものごとの有り様や考え方と、専門分野の深い理解を存分に楽しんでほしいと思います。





大学生活への期待

農学生命科学部長 佐々木 長市

入学おめでとうございます。

弘前は、りんごとさくらとお城で有名な城下町です。弘前の地は、四季折々の祭りや弘前市から近い場所に山登りやスキー場などのスポーツが楽しめる場所が多数あります。なんといっても世界自然遺産白神山が大学から1時間ほどの距離にあることは素晴らしいことです。こうした恵まれた環境で大学生活を送れることは幸せなことではないかと考えております。しかし、地域の財産を有効に生かす前向きな気概が必要です。できれば、卒業までには弘前あるいは津軽さらには青森県の良さを一つでも多く発見し、卒業後には多くの人に伝えることが出来るようになってほしいと思います。このことが、他県から来た人にとって皆さんの地元の良さの再発見にもつながるものと期待しております。将来の就職の際にもきっと役立つことでしょう。

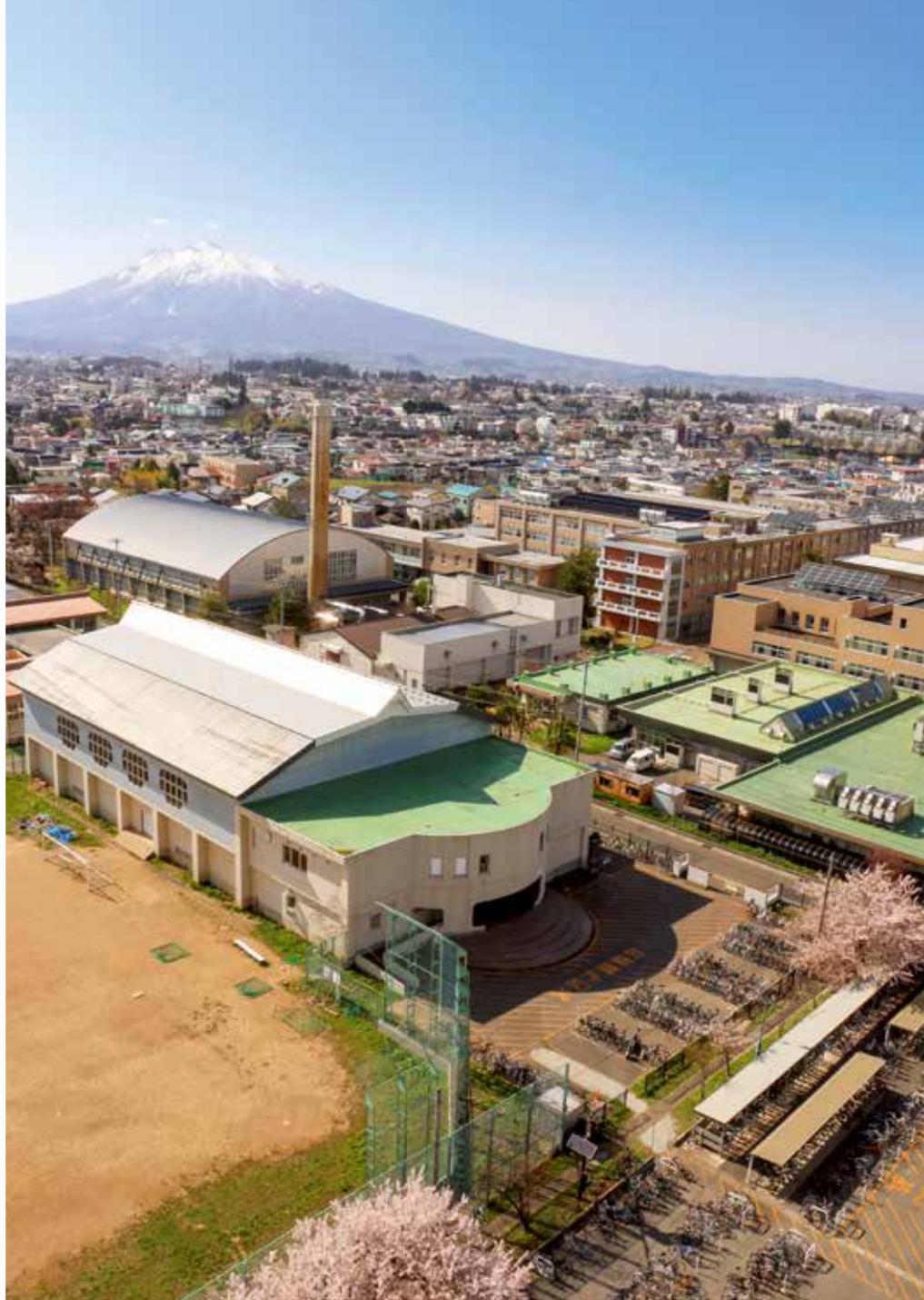
皆さんの中には、自宅を離れ一人暮らしを始めた人も多いでしょう。新型コロナウイルス感染防止に配慮した大学生活は、大変な心労をもたらしていると懸念しております。これまでは家族に囲まれ、多くのことは両親に頼ってきたと思います。これからは、食事や洗濯などの身の回りの全てを自分で行うこととなります。食事の支度などこれまで親が世話してくれ、何不自由なく暮らしていた環境から、全てを自分ですることになります。3度の食事の準備を考えると、親の凄さが身に染みるのではないのでしょうか。また、一人で食事をすることになり、兄弟や家族のありがたみを知ることになると思います。さらに、友達と食事をする、友人のありがたみを身に染みて感じられることでしょう。勉学以外にも、これまで体験できなかった多くのことを大学生活では知ることになります。料理などにも積極的に挑戦し、得意料理の一つも作れるようになって、家族を驚かせてください。買い物は、地元の人々との交流の場であり、この地の人々の大学生に

対する人情の厚さを知るきっかけになることでしょう。弘前のお母さんのような人を発見できるかも？この地ならではのりんごをはじめとした食べ物の良さを知ることや、自分なりに良いと思う土産を選んで、帰省する時には家族に持って帰れるようになることを期待しております。

弘前市のりんご公園では、公園周囲に360度広がるりんご畑が一望でき、この地が全国一のりんごの生産地であることを実感でき、この地のシンボルである岩木山が一望できます。その昔は忍者の修行の場だということも紹介されております。りんごの歴史を知る貴重な場所です。この地に、りんごを導入した先人や、病害虫が発生した際には先人のおかげでりんごの産地としての危機を乗り越え、今日の生産地が形成されたことが分かります。代表的なりんごの樹形は弘前の地で考え出されたものです。多くの先人の努力のもとに現在が作り出されています。こうした歴史を知ってほしいと期待しております。きっと、皆さんの人生を豊かにしてくれます。

最後に、新しい暮らしの始まりに際し、このような勉学の機会を与えてくれた両親や先生方に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。







人文社会科学部

新たな人生の局面を迎えて

新入生

期待と不安が入り交じる気持ちを抱えながら生まれ育った地元を離れ、何もかもが初めての経験で暗中模索の中、新たな生活がスタートしました。今年も昨年同様に新型コロナウイルスの感染状況は予断を許さない状況ではありましたが、幸いにも入学式や対面授業、サークル活動などを行うことができ、そのおかげもあって大学生活にも段々と馴染んでいくことができました。

これから弘前大学で4年間過ごしていくことになるわけですが、大学は勉強だけではなく、全国各地から集まってきた考え方も価値観も違う人たちと関わり合い、自分自身の新たな視野の獲得の場であるとも考えている

人文社会科学部 文化創生課程1年 中村一雄

ので、人との関わり合いを大切に、大学生活を過ごしていきたいです。また、バイトやインターンシップなどにも積極的に取り組み、実際の社会の様子を実際に体感し見聞を深め、自己研鑽に励んでいきたいです。

比較的自由な時間が多い大学生活ですが無計画なままで過ごしていると貴重な時間があっという間に過ぎてしまうので、しっかりと計画を立てて、勉強や趣味、友人との交流など有意義で充実した時間を過ごし、大学を卒業する時になって、「本当に楽しかったな」と思えるような大学生活にしたいと思っています。



人文社会科学部
社会経営課程1年
大本侑奈

大学生活に向けて

私たちが弘前大学に入学して約1か月が経ちました。心配だった1人暮らしにも慣れて、新しい友達もできて充実した日々を送っています。ここまでの1か月は本当にあっという間でした。なので、1日1日を無駄にせず有意義に過ごしていきたいです。

私がこの4年間の中で経験してみたいことのひとつは留学です。新型コロナウイルスの影響でできることは限られてきてしまうと思いますが、短い期間であっても多文化に触れ、日本の文化との違いを実感することや身に着けた語学の知識を生かせる場に行くことは充実した体験になると思います。

また、私はサークルやバイトなどを通じて交流を広げ様々な経験をしていきたいと考えています。大学での活動や課外活動を通して、コミュニケーション力を磨き、臨機応変に対応できるようになりたいです。また、大学は高校よりたくさんの方がいて、さらに自由度が高いと感じます。そのため、他人の意見に流されることなく、自分の意見をしっかりと持って行動できるようになりたいです。自分たちを支えてくれる人への感謝を忘れずにこれから充実した4年間を送っていきたいです。



人文社会科学部
社会経営課程1年
木村奏也

弘前大学の新たな一員となって

弘前大学の一員となった入学式から早くも一ヶ月が過ぎ、弘前大学での生活にも徐々に慣れてきたと感じる様になりました。新たな知り合いもでき、サークルにも入って、日々楽しく大学生活を送っています。

私ははじめ大学で勉強していくことに不安がとてもありましたが、授業を受けていくうちに知識を見につけ、それを使っていくといった大学の勉強に少しずつ慣れていくことができました。また、いつオンライン授業になるかわからない状況の中でも気を抜かず、体調管理に努め、普段と変わらずしっかりと勉強を頑張っていきたいと思っています。

大学での4年間の時間は短いものかもしれませんが、それは自分の興味のあることや挑戦したいことなどに使うことができる自由な時間であるとともに、自分の将来やりたいことや目指していることのために必要な能力を身につけることができる重要な時間だと思います。私はまだ将来、就きたい職業が明確には決まっていなため、この4年間の時間を無駄せずに、アルバイトやサークル、英会話など有意義に時間を使いたいです。

弘前大学でのキャンパスライフを楽しく頑張っていきたいと思っています。



人文社会科学部

在校生



人文社会科学部
文化創生課程3年
鈴木幹司

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学から数ヶ月が経ちましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年も昨年同様でコロナ禍での学校生活が続く、今後の社会が不透明な状況です。そのような中でも、これを読んで皆さんの生活のモチベーションが少しでも上がればと思います。

自分が一番伝えたいのは、いろいろなもの・ことを好きになりましょう、ということです。高校時代では部活動しかやってこなかった、去年は受験のことしか考えていなかった、そのような人も多いかと思いますが、自分も昔はまさにそのようなタイプで、「今が充実していれば他に趣味なんて増やさな

くて良い」とまで考えていました。もちろん、既に自分は多趣味だと思っている方は、限られた時間を有効に使うことができますと思います。しかし、大学生になると自由に使える時間が大幅に増えます。

好きなものが増えると、人生が間違いなく楽しくなります。そして大学生にはそれを増やすための時間があります。この数ヶ月、既に時間の多さを実感しているかもしれません。まずは学校の友達との会話や、休み時間に見るSNSで幅広い視野を持ってみてはどうでしょうか。その好奇心のアンテナが、みなさんの学生生活を豊かにすると思っています。



人文社会科学部
社会経営課程3年
片岡悠人

新入生の皆さんに向けて

新入生の皆さんご入学おめでとうございませう。新型コロナウイルスが流行しており、少し慌ただしい中で大学生活がスタートすることになり、不安などもあるかと思いますが数ヶ月ほど経過し、少しずつ新しい暮らしにも慣れ始めてきたのではないのでしょうか。

皆さんはこれから4年間、大学生活を送ることになりますが、私から伝えたいのはこの4年間の中で是非たくさんの新しいことに挑戦し、多くの経験・体験を積んでほしいということです。大学生には時間があります。何もしなければ膨大に感じてしまうこの多くの時間をどのように有意義に使えるかが大切であると私は大学生活を送

る中で感じました。

この多くの時間で学業に励むのはもちろんですが、先でも述べたように時間がある大学生だからこそできる他のことにも挑戦し、皆さんには楽しんでほしいです。部活やサークル活動1つにしてもそこから様々な経験や人脈を得ることができ、思い出もできます。アルバイトをすれば社会経験の一環として楽しく働く思い出もできます。これらは一部に過ぎませんが、大学生活の中では新しい経験がたくさんできることと思います。

現在の厳しい状況下ではありますが、皆さんがこの先、悔いの無く楽しい大学生活を送ることが出来るよう願っています。



人文社会科学部
社会経営課程3年
菊地すみれ

時間割について

皆さん、コロナの影響でなかなか思うように過ごせない状況が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

私はこの場をお借りして、皆さんには大学でのわりと実用的な授業の受け方についてお話ししようと思います。来期からの時間割の参考にしてみてください。

私が弘前大学を選んだ理由の一つは、総合大学で他学部の授業を受けることができるからでした。一年生の時はコロナが流行っていなかったため、友人の時間割を経由して他学部の授業を履修したり、空きコマに潜入したりして、いろんな学部の授業を受けていました。大学では、授業の受け

方も自由で楽しみながら授業を受けることができました。学年が上がると、時間に余裕が出てくるので、履修しやすいです。人文は自由科目を取らなければならないのでとても助かっています。意外にも、他学部で自分の専門に関連する授業が開講されていることもありますし、同じようなことを学んでも先生の教え方が違うので、新しい発見があるかもしれません。専門科目に窮屈さを感じたり、頭でっかちになってしまったり…。そんな時にぜひ他学部の授業を受けてみてください。皆さんの大学生活が充実したものになりますように。



教育学部
学校教育教員
養成課程1年
森 雅隆

大学生の自覚を持って

弘前大学の入学式からおよそ一ヶ月が経ちました。新たな友達ができ、大学生活にも少しずつ慣れてきました。そこで私は大学生活を送る上で特に二つのことを心がけていこうと思います。

一つ目は責任ある行動を取ることです。昨今は新型コロナウイルスが流行しており、青森県でも連日のように新規感染者が確認されています。ですが、今年は何んとか対面の授業を行うことができている。また、私の所属する教育学部では実習が多くあります。そのような中で、もし感染者が出ると大学ではオンライン授業となり、実習先にも迷惑がかかってしまいます。そのような

事態を避けるためにも、一つ一つの行動に大きな責任が伴うことを改めて自覚して日々を過ごしたいと思います。

二つ目は新しいことに挑戦するということです。私はそのうちの一つとして、三味線サークルに入りました。今まで楽器経験のない私ですが、人前で演奏できるように勉強と両立しながらこれから頑張りたいと思います。

最近は自粛ばかりで多くの制限がされています。ですが、そのような状況のなかでもできることを見つけてチャレンジしていこうと思います。そして、これからの四年間を有意義なものにしていきたいです。



教育学部
学校教育教員
養成課程1年
東 真衣

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して約1ヶ月が過ぎました。弘大生の一員となることができとても嬉しく思います。また、弘大生として自覚と責任感をもっていきたくて思っています。

県外からきた私は、新しい地で一人暮らしをするのはとてもワクワクしつつも不安ばかりでした。出身高校の同じ友人も少なく、友達はできるのだろうか、うまくやっていけるのだろうか日々心配ばかりしていました。ですが弘前大学の皆さんは、とてもあたたかく優しい方ばかりで私が初めに抱えていた不安はなくなり、とても楽しい大学生活を過ごすことができている。また、地域の方々もとても優しい方ばかりで、何も分

からない私はたくさん助けられました。弘前に来て本当によかったと実感したことはたくさんあります。

授業が始まり、慣れないパソコンやレポートの課題は多く戸惑うことも多くありました。しかし、自分が将来なりたい職業の専門の講義や自分の興味のある講義をうけていると、とても興味深く毎回の講義が楽しみななっています。教養教育科目については全く自分には専門外なものも学ぶことができ幅広い知識を身につけることができます。

この大学4年間で幅広い知識と専門知識を身につけていき、様々な経験を積んで充実した大学生活を送っていきたくと思います。



教育学部
養護教諭
養成課程1年
池本 紗彩

『弘前のまちで学ぶ喜びと共に』

私は、養護教諭を目指したいという思いと弘前という街に惹かれ総合大学である弘前大学を志望しました。総合選抜II型で合格をいただき、この春弘大生となることができ本当に嬉しく思います。

オープンキャンパスはオンラインでの開催だったので、初めて弘前の地を訪れたのは11月の入試のときでした。その時に見た弘前公園の紅葉は桜に劣らず素晴らしいものでした。大好物のりんご栽培が盛んで城下町という歴史があってどこか懐かしく風情のある弘前の雰囲気に惹かれました。そして今、弘大生となり改めて魅力を感じています。

大学生となって1か月、すべてが初めての経験で不安も多かった毎日にも慣れ、少しずつ充実した生活へと変わってきています。

これからの4年間養護教諭になるための知識と技能を身につけ、積極的にたくさんの人と会うことで人間性を磨き、仲間とともに成長しあいながら専門性を高めていきたいです。また、地域の人々とも接していくことで、もっと弘前のことも知っていきたくです。将来は、子どものヘルプサインにいち早く気づき寄り添うことのできる強く優しい養護教諭になれるよう、初心を忘れずに研鑽を積み有意義な4年間にしていきたいです。



教育学部

在校生



教育学部
学校教育教員
養成課程3年
久保田 汀

人との関わりを大切に

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。初めての生活に、期待と共に不安や緊張を抱いている方が多いのではないのでしょうか。ですが今、学校で対面講義を受け、サークル活動に参加できている貴重な時間の中で、私はみなさんに大学生活で出会う人々との関わりを大切にしてほしいと思います。

大学は、育ってきた県や国、環境、年齢などが自分とは異なる学生と関わる機会が多いため、その分、他の学生と価値観や考え方が異なると感じる場面に多々出会うこととなるでしょう。また、アルバイトに関し

ては、学生という枠を越えて大人の方々と関わりを持つこととなります。そのため、みなさんには講義やサークル活動、アルバイトを通して様々な人と関わり、自身の視野を広げ、価値観を多様にしてほしいと思います。

今現在でもこの状況がいつどうなるかわからないままで、また、直接的に人と関わることで自身が懸念される時勢ではありますが、だからこそ大学生活で出会う人々との一瞬一瞬の関わりを大切に、自身の経験として積み重ねていってほしいと思います。私自身も、いつかみなさんと何らかの形で会えるのを楽しみにしています。



教育学部
学校教育教員
養成課程3年
前田 祥哉

新入生へ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい生活に夢や希望を持つと同時に、不安や悩みを感じていると思います。私も入学当初はそうでした。しかし新しく出会った友達と時間を共にするなかで不安や悩みは消えていき、学校生活が楽しいものになっていきました。友達という存在はとても大きいです。心から笑い合い、悩みを相談し、時にはぶつかり合いながらも、お互いに支えて高め合うことができます。そういった友達は卒業した後でもいざというときに頼りになることでしょう。積極的にサークルや部活動に参加したり、授業やゼミでの議論など自分から行動することで素敵な友

達に出会うことができると思います。皆さんにはそういった友達をつくり充実したキャンパスライフを送ってほしいです。

これからの四年間はあっという間に過ぎていきます。今までに比べ格段に自由度が増しますが責任も伴います。どのように過ごすかは自分次第です。自分のやりたいこと、今しかできないことに全力で取り組んでほしいと思います。これから大変なこと辛いことたくさんあると思いますが、それすらも自らの糧として成長していきましょう。

皆さんの大学生活がより良いものになるように願っています。



教育学部
養護教諭
養成課程2年
瀧口 莉乃

新入生のみなさんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが入学されてから早くも1ヶ月が経ちましたが、弘前大学での新生活には慣れましたでしょうか。去年に始まり、現在もなお流行の真っ只中にある新型コロナウイルス感染症の様々な影響を受けていることでしょう。まず、このコロナ禍で、初の共通テストを経験し、受験を乗り越えることは決して簡単なことではなかったと思います。本当にお疲れ様でした。幸いにも、今年は感染症対策に配慮した中、入学式も無事にとり行われ、皆さんの大切な節目が祝いされたことを大変喜ばしく思います。

さて、私が皆さんに伝えたいことは自分の可能性を信じてほしいということです。大学生には、自由な時間が多く存在します。その与えられた時間を有意義なものにするために、皆さんには自分と向き合い、自分の声を聞き、そして自分の可能性を信じて突き進んでほしいと思います。自分自身が心躍ると感じることを思う存分楽しんでください。

皆さんの大学生活が素晴らしいものとなるよう応援しています。困ったことがあってもなくても、先輩や友達など周りの人たちにたくさん頼ってくださいね！



医学部
医学科1年

安達優介

後悔しない6年間に

4月5日の入学式から早いもので1ヶ月が経ちました。新型コロナウイルスが猛威を振るう中でも、授業や部活に思う存分取り組める今の状況に感謝しながら大学生活を送っています。

大学生として1ヶ月生活して学んだことは、自主性が重要だということです。授業を受ける中で高校までと違って与えられたものをやればいわけではなく、それに加えて自主的に調べなければ深い理解は得られないのだと身にしみて感じました。将来、患者さんを安心させられる医師になるために6年間を通して自主的に学ぶ意識を貫いていこうと思います。

「常にスーパーサイヤ人になれ」

これは、私が中学生のころ部活の顧問の先生から言われた言葉です。妥協せず全力で臨めばいつか全力を超える力を出せるようになって成長できるというありがたい教えをいただきました。おそらくこれからの6年間は自由な時間の使い方ができる最後のチャンスだと思います。勉強だけでなく部活動やアルバイトなど、学生のうちにしかできないことにも全力で取り組んで成長していきたいです。

豪快で繊細に、そして謙虚に後悔のない6年間を送りたいと思います。



医学部
医学科1年

葛西梨子

弘前大学に入学して

まず何よりも最初に、これまで支えて下さった方々に感謝の気持ちを述べなければなりません。友人たちや先輩方、先生方、そして家族。私が受験を乗り越え今この弘前大学にいられるのは多くの人々の支援があったからです。また、私はこのあたりまえな日常にも感謝しなければなりません。件のウイルスのせいで、昨年の前期の授業は全てオンラインで実施されたと聞きました。クラスメイトの顔も分からず、大学生活に不安を感じることもあったと思います。しかし今年は様々な制約を設けながらも、対面で授業することができています。私はこの日常がいかに貴重なものであるかということ

に、異常な事態に陥って改めて気付きました。

ウイルスはまだ収束しておらず、日常はいつ戻るのか、いや、戻るのかさえ分からない。でも、私はいつでも前に進むことを忘れない人でありたいです。置かれた状況のせいにして歩くのを止めるのではなく、部活やサークル、趣味等小さなことでもいいから、今出来ることに全力で挑戦し続けたいです。これからの大学生活、私は楽しみで仕方がありません。初心を忘れず、前向きな気持ちで勉強はもちろんその他の活動にも励んでいきたいと思っています。



医学部
医学科1年

前西佳菜子

弘前大学に入学して

コロナ禍での受験でしたが、無事大学生になることができました。弘前大学に入学出来たことを本当に嬉しく思います。医師になるという目標に向かって、一生懸命勉強に取り組みたいです。

コロナウイルスの影響を少し受けていますが、先生方や先輩方の配慮のおかげで授業は対面で受けることができ、部活の新歓にも参加することが出来ました。オンラインで会話するとなかなか発言できなかつたり会話が聞き取りにくかつたりしたので、対面で授業を受け、直接会ってディスカッション出来るのが嬉しいです。今、普通の大学

生活を開始できたことのありがたさをとても感じています。新しい生活がはじまり不安なこともたくさんありましたが、友達や先輩方のおかげでとても楽しく過ごすことができています。

大学生活をどのように過ごすかは自分次第だとよく言われます。小さいことでも目標をもち、計画を立て、一生懸命取り組みたいです。また、色々な活動に参加したり様々な人と話したりと積極的に物事に取り組みたいです。そして、悔いの残らない、充実した大学生活を送りたいと思っています。



医学部医学科

在校生



医学部
医学科2年
下倉 佑太

“弘大生”として

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。件のウイルス、COVID-19はあらゆる活動にも非常に大きな影響を与えています。ただでさえ慣れない新生活に不安を募らせている方も多いのではないのでしょうか。大変な状況ではありますが、ここ弘前大学では多くの方々のご尽力もあり、幸いにも年度当初から対面授業を行うことができます。そこで僣越ながら私から皆さんへメッセージを送りたいと思います。

今後、皆さんは多方面でご活躍されることと思います。そうした場では様々な出会いを大切にしてください。これは、出自の全く異なる学友、バイトや部活動、その他の活

動での多種多様な繋がりのことです。一期一会と云われるように、それら一つひとつが稀有な経験です。さらには青森の雄大な自然との出会いも貴重な経験でしょう。ぜひこの地でしかすることのできない、弘前だからできる体験をしてほしいと思います。

また、大学では主体的な学びが大切です。日々を“なんとなく”で過ごしていると有意義な学びを得られぬままに進級できてしまいます。ぜひ大学という最高の学習環境を最大限に利用して幅広い教養を身につけるとともに専門性を磨き、後悔のない大学生活を送ってください。



医学部
医学科2年
堀越 杏奈

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！昨年度は新型コロナウイルスの影響や試験方法の大幅な変更などでとても大変な一年だったと思います。弘前での生活や大学生活にはもう慣れましたか。私からは皆さんに大学生活でぜひ大切にしてほしいことを2つお話ししたいと思います。

1つ目は、たくさんの人と繋がることです。同期でも先輩でも後輩でも構いません。縦と横の繋がりを作ることで、勉強面でもプライベートでも非常に充実できると思います。私の代は前期がオンライン授業、後期ではオンライン授業と対面授業のハイブリットで、同期はもちろん、先輩方と出会う機会がなかなかありませんでした。新入生の皆さんは多少の規制はありますが対面

で会う機会が多いため、ぜひたくさんの人と出会ってください。

2つ目は、積極的に課外活動に参加することです。部活やサークル、バイトなど、大学生になったからこそできることがたくさんあります。私は1年生の後期から接客のバイトを始めました。お金を稼ぐことや接客業の大変さは、学校では学ぶことができません。学生のうちにしかできないことを経験して、思いっきり楽しんでほしいなと思います。

少し先輩ヅラをした内容を書きましたが、参考になると嬉しいです。これから楽しいことも辛いこともあると思いますが、ぜひ充実した6年間の大学生活を送ってください！



医学部
医学科2年
山下 魁士

新入生に向けて

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナの影響が未だに続いている中の入学となりましたが、思い描いていたような大学生活のスタートは切れたでしょうか。さて、私には新入生の皆さんに伝えたいことがあります。それは、「何か新しいことに挑戦すること」、そしてそのために「アンテナを自分で広げていくこと」です。大学生活はこれからの人生において、自分の興味ある学びを突き詰めることが許された、限りある貴重な期間だと思います。ぜひ、今までやろうとは思ったけど行動には移せなかった、ということをお大学生活の内に挑戦してみたいです。何をやれば良いのか

分からない人は、自ら探してみましょ。この探索に役立つヒントは大学中にたくさん転がっています。教養科目で全く興味のない授業をとってみることも良いでしょうし、新しい人との出会いから思いつく発見もあるでしょう。これらの行動が契機として生じる好奇心を、学びの原動力にし、成長していきましょう。ここで得た成長は自らの糧となって、背中を押してくれるものになると思います。

ぜひ、学びと遊びと部活とバイトで大学生活を自分色に染めてください。応援しています。



医学部保健学科
放射線技術学専攻1年

前川 瑠星

成長できる4年間に

親元を離れここ弘前での暮らしを始めてから約一ヶ月が経ちました。一人暮らしを始め、今までは当たり前のようにしてもらっていた家事を一人でしていく中で親のありがたみをしみじみと感じています。

私は、将来診療放射線技師になりチーム医療の一員として地元である岩手県の医療に貢献していきたいと考えています。特に弘前大学医学部保健学科は5つの専攻を有しており、規模の大きな医療専門職機関です。私はここでの四年間を通して医療現場にお

いて重要であるチーム医療について学び、また他学生と積極的なコミュニケーションを取ることで自分の専門分野のみならず医療に関する幅広い知識をつけていきたいと考えています。そして、大学での学習に限らず学校外活動やアルバイトなどを通して一社会人としても成長していきたいと考えています。

弘前大学で学べること、多くの仲間との出会いに感謝しながら将来につながる有意義な四年間にしていきたいです。

弘前大学に入学して

授業が始まって1ヶ月ほどが経ち、不安だった学校生活にもだんだん慣れてきました。入りたかった大学で同じ目標を持つ仲間と一緒に勉強をできることに喜びを感じ、また、友達・先輩・先生もいい人ばかりで毎日がとても楽しく充実しています。

大学生活に慣れてきたとは言っても、まだまだ不安なことは沢山あります。大学は高校までよりも自由が多く、不安に思うことが多々あります。決められたことを行ってきたこれまでの生活とは大きく異なり、自分で考えて決定することが多いため、戸惑いや心配が生じてしまいます。しかし、自分で判断して行動していくことは、社会

医学部保健学科 検査技術科学専攻1年 米澤好香

人になって働くときに必要不可欠となるため、今は失敗も経験しながらどんどん積極的に行動していきたいです。

自由が多い大学生活は大変なことも多いですが、自由が多いからこそできることや楽しめることも沢山あると思います。自分の好きなことや挑戦したいことに没頭することが出来るのは、大学生の特権です。そのため、大学生活では自分の興味のあることにどんどん挑戦していきたいです。楽しく充実した大学生活にするために勉強はもちろん、それ以外のことにも全力で取り組む4年間にしたいと思います。



医学部保健学科
理学療法学専攻1年

佐藤 亜紀

弘大生になって

緊張と不安でいっぱいだった入学式から早くも1ヶ月が経ちました。

大学生になってまず感じたことは、「自由が多い」ということです。今までは様々なことが決まっている中での生活でした。一人暮らしを始め、好きな時に好きなことができる楽しさと同時に、全てに責任があり自分を律していかなければいけないという難しさを感じます。当たり前のように毎日世話をしてくれた親の有り難みもひしひしと感じています。

そしてもう1つ感じたことは「学びたいことが学べる楽しさ」です。私は理学療法を学ぶために弘前大学に入学しました。専門

的な授業を通して、ほんの少しですが夢に近づいている感じがしています。同じ目標を持つ仲間が近くにいることは刺激にも励みにもなります。

大学生は今まで以上に主体性や積極性が求められます。学業に勤しむことはもちろんのこと、サークルやアルバイトを通して多くの人と関わる機会を持ちたいと考えています。その中で多様な価値観に触れ、自身の視野を広げたり考えを深めたりしていきたいと思っています。新たな出会いを大切にしたいので、4年間という限られた時間を充実したものにできるよう頑張ります。


医学部保健学科・心理支援科学科
在校生

 医学部保健学科
看護学専攻2年
大矢真都
新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。コロナ禍での受験勉強を乗り越え、新生活にも慣れてきた頃だと思います。私はこの1年を振り返って、大学生は小、中、高とは違った事が多すぎて、何に取り組みばいいのかわからないことが多かったように思います。そんな時はまず行動してみることが大切と思いました。大学にはサークル、部活、バイトなどたくさんの交流する機会があります。是非、自分のコミュニティーを広げてみてはいかがでしょうか。そして、変化に恐れないことが必要だと思います。大学は全国からいろいろな人が集まっており、自分とは全く違う生き方や

価値観をもっています。最初は自分との違いに違和感を抱くかもしれませんが、自分を磨く為には周りの意見を聞くことも必要だと思います。大学生生活を豊かにするためにたくさん交流してほしいと思います。

コロナ禍でも、私にとってこの1年はあっという間に過ぎていきました。新入生の皆さんもやりたいことを実行するにはどうすれば良いのかを計画性をもって生活してほしいです。困ったときには周りに頼ってみてください。そして、卒業時には、充実した大学生活だったと胸を張っていえるようにしましょう。皆さんのこれからがよりよい生活になることを願っています。


 医学部保健学科
作業療法学専攻3年
村木辰吉
全力で、チャレンジングなキャンパスライフを！

新入生の皆さん、こんにちは。6月に入り、そろそろ学校生活にも慣れてきた頃かと思いますが、楽しいキャンパスライフを送れていますでしょうか。大学では高校と違い、自分の興味のある授業を取ることができ、自分の専攻について深く学ぶことができますので、これらの機会を十二分に活用し、自己研鑽をすると良いかと思えます。また、高校の時より比較的自由的な時間が多く、時間の融通が効くものですから、人によってはサークル活動や部活動、バイト、趣味、資格の取得のための勉強等に勤しむことができるかと思えます。これらの活動を通して、様々な人と出会い交流する

ことや、自分を磨くことは、とても充実した時間になりますので、是非とも全力で取り組んで欲しいと思います。特に時間のあふれる大学生にしかできないことにチャレンジして欲しいと思います。しかし、今年も未だCOVID-19が猛威を振るっています。一度感染してしまったり、濃厚接触者になってしまうと、他人に迷惑をかけてしまう可能性も十分にあり得ることですので、情報を常にチェックし、体調管理を怠らず、なるべく感染リスクを避けつつ行動するのが最善かと思えます。感染には十分気をつけながら、充実したキャンパスライフを送ってください。


 医学部
心理支援科学科2年
佐藤桃佳
新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、いかがお過ごしですか？私は去年の春に入学し、あれよあれよという間に一年以上が経ってしまいました。新型コロナウイルスに振り回される日々がまだまだ続いていますね。制限付きの大学生活をいかに謳歌しようか…。そうやって悩むのも、楽しい反面、うんざりしてしまいます。

高校とは異なり、大学では自由がとて多くなりました。同時にその使い方を考え、責任を持たなくてはならなくなりました。アルバイトをしたり、遊びに行ったり、サークルに参加したり。その使い方は様々です。友人は資格を取っていました。友人の過ごし方を参考にするのもいいかもしれません。意外にも、感染症の影響で制限された生活

の中でも、「やってみよう！」と思うことがたくさんありました。

もう一つ高校と違うことがありました。それは人の多さです。今までの十数倍の人数に、出自の違う様々なタイプの人で溢れています。ちょっとだけ、コミュ力あげて話しかけてみてください。「こんな人、高校じゃ居なかった！」と何度も思わされたし、自分の世界がいかに狭かったか思い知らされました。

人との関わりは人生を豊かにし、自分を成長させてくれます。皆さんの大学生活が充実した、楽しいものになるよう、心から願っています。



理工学部
数物科学科1年

佐藤 晴

大学生活と学びの面白さ

初めての一人暮らしということもあり不安でしたが引っ越しや事務手続きなどでは家族にたくさんお世話になったため、とても感謝しています。また、大学生活で初めてのことでなければ終始不安だった私に対して、先生方や職員の方や大学の先輩方が優しく教えてくださったため今は少し落ち着きました。

私は、小学校から高校へと学習を進めるうちに、宇宙物理学に加えて数学にも興味を持ち始め、大学に入学してからやりたいことが増えてゆきました。そんなときに数物科学科について知り、自分のやりたいことの多くができると思い弘前大学に入りたいと思いました。

このような気持ちで入学した私は、大学

でできた友人と一緒に授業を受ける中で、新しく学んだことについての疑問点や自分の興味があることを話すのが楽しいと感じることが多くありました。自分の知らないことを学び、理解し、それを使って自分で何かをするということは、新しいものを手に入れた時と同様に楽しいです。私は興味を持つ分野が文系・理系や学問において多方面に及ぶことがあるため、幅広い学問を学べる弘前大学に入学して良かったです。これから四年間で、大学生活を楽しむだけでなく多くのことを学んで身につけ、卒業時に「最高だった。」と思えるような大学生活にしたいです。



理工学部
機械科学科1年

杉本 武蔵

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して約1か月が過ぎました。初めての一人暮らし、見知らぬ土地での生活、新型コロナウイルスの感染拡大など1か月が過ぎた今でも不安要素は沢山ありますが、新しい友達や部活・サークルの先輩方のおかげで楽しい生活を送ることができています。

私は弘前大学で4年間学ぶにあたって「常に成長し続ける」ということを大切にしていきたいと考えています。大学は高校とは違い、様々な制限が無くなり学生が自由に使える時間が増えるため、主体的に行動し学んでいく力をつけることが重要です。私はこの言葉を軸に、自分の価値を高めら

れるよう行動していきたいと思っています。

また、大学は専門知識を得るだけでなく、部活やサークルに所属することで、様々な価値観を持つ人に出会い自分の世界を広げることできる場だと考えています。私は大学生活を通して学習面だけでなく1人の人間として成長できるように様々な活動に挑戦し、その場その場での出会いを大切にしていきたいと思っています。

私は医用システムコースに進み、将来は医療用ロボットの開発に携わりたいと思い弘前大学に入学しました。希望のコースに進めるよう、1年生の今から勉強に力を入れ、4年間を有意義なものにしたいと思っています。



理工学部
自然エネルギー学科1年

濱田 光生

弘前大学での新たな生活

私は今年度、弘前大学の学生となることができ日々喜びを感じています。

弘大生としての生活が始まるまで私は不安でいっぱいでした。大学で友達ができるだろうか、講義についていけるだろうかと考えていました。しかし、入学式やwelcomeパーティー、オリエンテーションを通して友達を作ることができました。また、講義は難しいところを周りの方に聞くなどして現在は不安なく受けることができています。

弘前大学には高校とは異なる部活、サークルなどたくさんあります。私は入学する前から部活、サークルにとっても憧れがありまし

た。そのため、たくさんの部活、サークルを見学しました。たくさんの先輩方が自ら考え熱心に活動する姿をたくさん見ることができました。そして自分も参加したいという思いがより強くなりました。

約1ヶ月間大学生として生活し分かったことがあります。それは判断の重要性です。大学ではこれまでと違い、衣食住、受ける講義、部活、サークルなど様々なことが自由になります。そのため自分が判断する要素が増えることとなります。

常に正しい判断を心がけ、楽しい大学生活を送れるよう何事も頑張っていきたいです。



理工学部

在校生



理工学部
物質創成化学科 3年
工藤啓喜

主体的な行動を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。例年とは違った混乱を極めた状況の受験生活を切り抜け、大学に入学したと思われま。新たな出会いや学び、夢に描いた大学生活、新たな自分の発見など、多くの人が期待を抱いているのではないでしょう。

今までの高校生活とは違い、大学では自由な時間が格段に増え、アルバイトやサークル、留学、インターン、最先端の研究など様々なことに挑戦できます。しかし挑戦の幅が広がる反面、自分自身の選択がこれまで以上に重要視されます。今までのような受け身な姿勢だと、あっという間に大学

生活が終わってしまいます。大学生活を通して何を学び、何を掴み取るのかは本人次第です。学年が上がるにつれて就職や進学などを考え、挑戦する時間が少なくなります。早い段階から目標を決め、できることから取り組むことがベストだと思います。

また、今まで以上に悩み事や窮状が増え、人間関係が広くなり、合わない人苦手な人が現れると思います。一人で悩まずに様々な価値観を持った人と交流し、友達と支え合い、最先端を走る先生の元で自分を高め、大学を卒業するときには「有意義な大学生活だった」と言えるように頑張っしてほしいです。



理工学部
地球環境防災学科 4年
長尾優樹

大学生にしか出来ない事に挑戦を！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新生活いかがお過ごしでしょうか。

私は弘前大学に入学してから意識している事が一つあります。それは「大学生にしか出来ない事に挑戦を」することです。もともと、私は登山や旅行が好きであったのでそれらを極めるために、富士山や日本アルプス、北海道の大雪山縦走、屋久島登山をしたり、鹿児島県から北海道まで二週間以上かけて陸路で日本縦断をしました。一緒に行動を共にした仲間はもちろん、そこで出会った方々や見た景色、経験した事は私にとって一生忘れない掛け替えのない思い出になりました。

もちろん、現在の状況では色々な事が制限され、例え挑戦したい事があっても出来ないものもあるかもしれません。しかし、そこで諦めたり、何もしないのではなく、その中で出来る事を見つけ、挑戦する事が大切だと思います。

最後に、「社会人比べて大学生には多くの時間があるから…」とよく聞くと聞きます。そのため私は上記のように行動し挑戦してきました。しかし、その時間はあっという間に過ぎていきます。大学を卒業してから後悔のないよう、大学生ならではの経験をして、一生の宝物にしてもらえたら嬉しいです。



理工学部
電子情報工学科 4年
富樫眞心

積極的な行動を

新入生の皆さん、あらためてご入学おめでとうございます。大学生活がはじまりしばらくたちますが、大学生活にはもう慣れましたかね？このご時世、昨年より落ち着いてきたとはいえ新型コロナウイルス感染症が蔓延しているなか、不安に思うことも多いと思います。そんななかで僕からは、貴重な大学生活を有効活用するためのちょっとしたアドバイスをしたいと思います。私が皆さんに大切にしたいものは「積極性」です。大学では高校とは比べ物にならないくらい自主性が求められます。もしかするとこれを面倒だと思う人がいるかもしれませんが、裏を返せばそれだけ自分で自由に決め

る権利があるということです。部活・サークル、留学、資格、バイト、選択科目など何でも構いません。とにかく自分のやりたいこと・興味のあることに対して積極的に行動を起こすことが大切です。そこで得られた経験は視野を広げ、自己の成長につながっていきます。4年間の限られた大学生活を悔いのないよう過ごすためにも、ぜひ「積極性」を持った行動を心がけて欲しいと思います。最後に、皆さんが最後に「充実した大学生活だった」と胸を張って言えるような大学生活を送れるよう応援しています。



農学生命科学部
分子生命科学科1年

千葉 諒介

実りの多い大学生活に

私が大学生活を送る上で驚きを覚えたのは、自由度が高すぎるということです。高校までは時間割はすでに決められており、部活動は数えられるほどしかありませんでした。しかし、大学では受けた講義を自分で決め、サークルや部活動は数多く存在します。こういった自由度の高い生活によって自主性や計画性が養われていくのだと思います。

私は微生物の研究に携わることを目指して分子生命科学科を志望しました。微生物は、私たちの生活に最も身近に存在している生き物であるとともに最も知覚しにくい生き物であると思います。この矛盾が私の興味関心を惹くひとつの要素だと思います。

微生物学の分野は、真菌学や原生動物学など様々ありますが、私が特に興味をもつ分野は細菌学やウイルス学です。この分野に興味をもったのは新型コロナウイルスの影響が大きいと思います。医学、薬学が指数関数的に発展してきている現代ですら、簡単には有効な治療薬が開発できないほど、ウイルスなどの微生物は未だ分からないことだらけです。また、微生物自体はとても小さいですが、あの身体には、世の中を変える大きな可能性を秘めていると思います。

専門を学ぶのはまだ先の話になりますが、日々の積み重ねを怠らず、有意義な大学生活を送りたいです。



農学生命科学部
食料資源学科1年

山崎 果鈴

新たな大学生として

授業が始まって数週間が経ちました。初めての一人暮らしに試行錯誤しつつ、必死で馴染もうとして、忙しく心の休む暇もない日々を暮らしています。履修登録もとうに済み、講義も進んでいますが、今でも漠然とした不安に駆られながらの毎日です。

非常に恵まれた環境で暮らしてきました。両親からは、一人で生きていけるのかどうか、心配されながらのスタートでした。

しかし、授業が始まってしばらくした今、生活に特別大きな障壁は生じていません。これには環境の他に、いくつかの理由が思いつきます。講義に遅れずに済んでいるのは新しい仲間たちのおかげであり、右も左

も分からない履修登録を確定させることができたのは先輩方の助言があつてこそ。なんとか毎日を暮らせているのは自身による自律のためであると思います。そして、どこで暮らそうと重要なのは、人とのつながりと、自律する意志であると思知らされます。

今、弘大生の一員として、自分を信じて率先していく力を身につけたいと考えています。そうすることで、生き抜く術を持ち、活動的な人間となり、助け合える仲間を増やすことに繋げられるだろうと期待します。そしてこの文章を書いているのも、その試みのひとつなのです。



農学生命科学部
地域環境工学科1年

阿部 陸

一年生

私が、弘前大学に入学してから約一月ほどしかたっていませんがこの一月は、初めてのことがばかりでとても大変で濃い一ヶ月だったと感じています。

まず私が大変だと感じたことは大学の仕組みを理解することです。キャンパスは広くてどこに何があるのかもわからないし、履修登録などパソコンで何かをするという機会も多く、今まであまりパソコンを触ってこなかった私にとってとても大変なことが多かったです。

また、標準語を話すという点においてもとても苦労しました。私は、津軽の出身で友達と話していても気を抜いてしまうと、と

てつもない訛りとともに強烈な方言が出てしまいます。まあ悪いことではないんですけどね!!でもいつまでたっても津軽弁で話せばいいわけでもないで、たくさんの人とコミュニケーションを図り、人とのつながりの中で様々なことを学び私の将来の糧になっていけばいいかなと考えています。

せっかく四年間もの間、弘前大学で学ぶことができるので専門的な知識だけでなく、教養教育からも様々なことを学び多面的なものの見方ができる人になりたいと考えています。

有意義な四年間にできるよう頑張ります。ありがとうございました。



農学生命科学部

在校生

農学生命科学部
生物学科4年

二ツ森 瑠衣

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。6月になり、大学の雰囲気や新生活に少し慣れてきた頃合いでしょうか。コロナウイルスの影響で、大学生活だけでなく、受験期から沢山苦労なさったと思います。今回この場をお借りして、私から大学生活を送る上で役立つアドバイスを2つほどご紹介したいと思います。

1つ目は質問することです。大学の授業では今まで以上に専門的な知識、膨大な量を学ぶことができます。しかし、疑問が生じてそのままにしてしまうと入ってくる情報に押されて蔑ろになることが多いです。その内容が後の授業に響くことも多々あります。

先生に直接聞くのが確実ですが、友達や先輩も頼ってなるべく早く解決することを強くお勧めします。

2つ目は多くの事に挑戦することです。特に大学生活1年、2年目の長期休みは大きな空き時間ができます。今の時期アルバイトや外出は限られるかもしれませんが、できる限りいろんなことに挑戦して視野を広げることをお勧めします。その後の就活や進学に大いに役に立ちます。

未だ生活に不自由が残り大変な時期が続くと思います。身の安全を第一に気を付けつつ、勉学に励んでください。心より応援しています。

農学生命科学部
食料資源学科3年

吉田 史邦

後悔しないために

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まって数か月経ちましたが、そろそろ新生活にも慣れてきた頃合いでしょうか。たった数か月でもあっという間に過ぎていったなと感じている方も多いかと思いますが、私は今年3年生になって痛感しています。大学生活の4年間は思っている以上にあっという間です。

昨年度の前期はコロナウイルスの影響でオンライン授業でした。そのため大学に行くことがほぼなく、何もできないまま時間だけが過ぎていってとても後悔しています。大学1、2年生が1番楽しいとよく言いますが本当にその通りだと思います。3年生になる

と研究室に配属されるため今までより忙しくなり、自由な時間が少なくなります。

1年生の皆さんには、今のうちにやりたいことを存分にやってほしいです。このご時世なので外へ出ることには抵抗があるかもしれませんが、探してみると今でもできることがたくさんあります。私が特にやってあげよかったと思うことは、資格の勉強です。幅広い分野に役立つ資格はたくさんあるので、決して無駄にはならないと思います。勉強だけではなく、もちろん部活やサークル、友達との遊びは思う存分楽しんでほしいです！

農学生命科学部
国際園芸農学科3年

佐藤 継人

大学生としての選択

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。いかがお過ごしでしょうか。

これまでの学校生活とは異なり自由度の高い大学生活に驚いていることかと思われれます。大学生活で学び得ようとしていたもの、資格、入学以前より志していた研究室、部活、サークルなど、何かしら目標を持っていてもこの自由度の高さに目を奪われ気付いた時には卒業、なんてことはざらにあります。それはなんとなく入学した方も同じです。とりあえず、と続けたバイトや趣味活動も、卒業後の選択次第では全くの無駄になります。4年という期間は短いですが、大学での四年間は成長の機会として期待値が

非常に高く価値のあるものです。何事も就職までの最後の期間であることを認識して取り組むことをおすすめします。

最後に、新型コロナウイルスの影響で昨年度とはいかないまでも出だしが少し遅かったり外出が制限されていたりと様々な苦労に見舞われていることかと思われれます。しかし、コロナ禍での特殊な状況、新たな入試の形態など艱難辛苦を乗り越えてきたあなた方にはそれまでの学生には無い強みがあります。生かすも殺すもあなた次第です。全てが終わった時に後悔がないような選択を取れることを心より願っております。

研究室 紹介

探求心を育てる



写真1 University of Hawaii at Manoa でのシミュレーション研修後

保健学研究科 看護学領域 富澤研究室

教授 富澤 登志子

1. 研究室について

教育学部から保健学科に移動してきたのが2004年で、弘前大学での教員生活は今年で20年目になります。所属する看護学領域には、基礎、成人、小児、母性、精神、老年、在宅、地域など多様な専門領域が存在します。35名の教員が在籍し、それぞれに小さな研究室を作り、活動をしています。保健学研究科は被ばく医療に関わるプロジェクトを行っていることから、看護学領域だけでなく、放射線科学領域や医学領域との学際的な教育研究活動が行われています。本研究室は博士後期課程の学生が2名、博士前期課程の学生が1名、学部学生が4名の小さな研究室です。研究室のテーマは、シミュレーション教育やバーチャルリアリティ（VR）を用いた研究の他、地域や医療における課題解決を企業とともに共同研究を通して実践しています。また他の研究室との共同研究も積極的に行い、異分野融合の学際的研究も目指しています。

2. 教育・研究活動の紹介

1) シミュレーション教育とVRについて

1999年は世界的にも医療安全や患者の権利、倫理など医療の本質への問いが投げかけられ、医療や医療者の在り方、そして教育の在り方を見直す機会になりました。アメリカではクリントン政権の医療安全の向上に向けた政策を契

機にシミュレーションセンターが設置され、2000年以降欧米を中心に広がっていきました。アメリカはシミュレーション教育の先駆者です。患者の安全性を向上するには医療従事者の実践の機会を増やすことが1つ有効といえます。しかしながら臨床現場にある機会、特に看護教育では、患者の皆様の権利意識の変化や複雑で高度化した医療現場が増えたことなどで学生が経験できる機会が制限されてきており、シミュレーション教育のニーズが高まっています。本研究室では、6年前からハワイ大学との交流を行い、シミュレーション教育の考え方、教育方法など学ぶための研修会を開催し、多くの教職員、学生が参加してきました。アメリカでは現場での臨床判断を育成することに力点が置かれており、実習に行く前に様々なケースの患者ケアを実践し、考え、振り返って学びを定着させる場を重要視しています。こうした教育の方法は日本でも取り入れていく必要があります。本学でも病院での実習だけでなく、実習後も、模擬患者を対象にフィジカルアセスメントを行ったり、患者移送の練習をしたり、術後患者の移動を補助するなど、シミュレーションおよび振り返りをして学びを深めていますが、実践力を高めるためには様々な場面でのシミュレーションの機会を増やさないといけなんでしょう。

シミュレーションとは技術を学ぶためにだけ行うものではなく、広義には疑似体験なども含まれます。コロナ禍で疑似体験で経験をすることの重要性も高まりました。本研究室では、VRによって看護ケアの質を高める取り組みを行ってきま



写真2 足浴におけるVRの効果検証中

した。これまでは眼科の緊急手術を行う患者の手術までの体験ができるVR教材を作成し、医療を目指す学生への教育効果について検証しました。患者体験をすることで必要な言葉がけや指導が明確になってきます。現在も患者にとって最適なケア環境を検討するためにVRを作成しその効果を検討したり、VRを用いた臨場感のある体験型の看護教育プログラムを開発をしています。写真は4年生の卒業研究の一場面、VRを用いた足浴の効果を見ている場面です。対面でしか得られない経験と対面でもなくとも経験できることを模索しながら教育や医療にとって最適なものを検証していきたいと考えています。

2) 医療の課題を地域の企業と解決する

医療現場には様々な課題がありますが、医療職の皆様は経験と工夫で日々の実践を行ってくださっております。現場での問題解決のために看護研究を行っていきませんが、工夫だけで課題解決できない場合、企業が持っている様々な技術やノウハウを応用して解決していくことが可能です。2年前に看護師の研究指導の際に「夜間巡視で使うライトで創部をみると白く反射してしまっちゃんと観察できないので困る」といった発言があり、刻一刻変化する微妙な患者様の状況を観察できずに困っていることがわかりました。どうしてもそのことが引っ掛かったので、実際にライトを購入して確かめると同時に、多くの看護師の意見を取りまとめると同様の意見がありました。さらに手元がぶさらないほうが良いとか、照度を変えられる方が良いとか、充電式が良いとか、いろんなニーズが出てきました。ニーズを満たす製品を作ることが現実的に可能か当時共同研究をしていた地元企業の方に相談してみました。やれるかわからないけれどもやってみましょうとのお返事をいただき、開発がスタートしました。試作品を作り、臨床現場で使ってもらい、見え方や使い勝手、他製品との違いについて比較しながら、そ



写真3 共同開発した巡視ライト

こで出たニーズをさらに次の試作品につなげていきました。しかしこうした開発には資金が必要ですが、すぐに資金がなくなってしまったため、今度はクラウドファンディングで資金を集めて製品化を目指すことにしました。目標額を超える支援をいただき、開発から2年でようやく製品化となりました。粘り強く現場のニーズにこたえてくれた企業の皆様の尽力の賜物ですが、同時に勤務の合間に研究に協力くださった看護師の皆様の協力のおかげでもあります。ニーズを形にしていくことは創造性の極みである研究の醍醐味ですし、何よりも社会に役立てることが実感できるため研究メンバーにとっては充実した取り組みになりました。また地元への貢献という一面もあり、地域との一体感を感じる活動ともなりました。企業の皆様にはこれまで培った技術や製品化するパワーがありますし、大学にはシーズを発掘し、社会のニーズとつなげていくスキルがありますので、こうした取り組みがもっと活性化していけることを願っています。現在もAIを用いた医療者支援のシステムづくりを行っています。医療者の支援ができる研究を今後も継続していきたいと思っております。

3. 最後に

看護学は、基礎研究の側面もありますが、応用の科学の側面が強いです。また携わる教育研究者の特性として共感性が重要視されます。不安定、不確実、複雑、そして曖昧で予測不可能なVUCAな時代が到来し、こうした状況では、固定観念を疑って一歩前に進む勇気とどんな状況にも柔軟に対応できる力、新しいつながりを作っていく力が必要です。弘前大学で学ぶ看護学生は柔軟でアイデアに富んでいます。その若いエネルギーで創造し、そして共感性を高め、専門や学部を超えて、また地域とリンクしてより新しい教育や看護を見出していきたいと思っています。デジタルトランスフォーメーションが進み、地球規模で同時にいろいろな情報を得ることができるようになりました。地方に住んでいても、全国、世界に発信できることをコロナ禍において特に実感できるようになりました。東北出身の方、特に青森出身の若い人たちは、東京など都会に思いを寄せ、地元になかなか残らない状況にあります。しかし、青森に残っていても、若い人たちが活躍できる場所はありますし、色々なことに関わりながら、自分たちでアイデアを出し動いていくことで世界に向けて発信できます。前に進む若い学生の皆さんをこれからも応援していきたいと考えています。



写真4 現在の富澤研究室のメンバー

New Face

はじめまして 新任教員 紹介

個性豊かな16名の教員が
新たに着任いたしました



人文社会科学部

文化財論講座

佐々木 あすか

令和3年4月に、人文社会科学部文化資源学コースに着任いたしました。専門は日本美術史で、なかでも仏師運慶とその仏像を中心とした平安時代から鎌倉時代の日本彫刻史を研究しています。永らく関東におり、東北での生活は初めてですが、今後は青森県内の仏像や文化財の調査・研究にも努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



人文社会科学部

国際社会講座

永本 哲也

私の専門は歴史学、特にドイツ近世史です。この頃は16世紀の宗教改革で生まれたマイノリティである再洗礼派の宣教方法と効果について研究しています。私は、大学院の博士課程を仙台で過ごした後、しばらく首都圏で非常勤講師をしていましたが、縁あって再び東北に戻ってきました。とはいえ、寒いのが苦手なので冬は心配ですが、これから教育・研究に尽力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



人文社会科学部

情報行動講座

松井 歩

4月から地域行動コースでお世話になっている松井歩（まつい あゆむ）です。人文地理学の視点から、ローカルな地域で小規模に営まれる漁業について研究しています。新潟県出身で、これまで石川県、愛知県と移り住んできました。弘前で生活は始まったばかりですが、優しい方々と美しい街に支えられて楽しく過ごしています。弘前大学の一員として、教育、研究、地域貢献に努めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



人文社会科学部

公共政策講座

渋田 美羽

4月に着任いたしました、渋田美羽と申します。社会法の担当ですが、専攻は労働法、特に集团的労使関係についてフランス法との比較研究を行っています。生まれも育ちも九州、留学先はボルドーということで、ずっと南西部暮らしでしたので、弘前で暮らしにはワクワクしています。経験はまだまだですが、それを補えるだけの熱意を持って、教育・研究・その他諸々、全力で努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部

国語教育講座

帆苺 基生

4月に教育学部国語教育講座に着任しました帆苺基生（ほがりもと）です。専門は日本近現代文学です。特に戦後から現代に至る小説や批評に関心を持っています。作家は石川淳という人を中心に研究してきました。石川淳は壮大な世界観の優れた小説を書いた作家です。これからも教育、研究に研鑽を積み、また青森県や弘前市ゆかりの表現者・文化人についても研究していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部

理科教育講座

田中 浩紀

理科教育講座（地学）の田中浩紀（たなかひろき）と申します。千葉県で公立高校の教員・管理職を務め、特にSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）やCS（コミュニティ・スクール）等で中高大連携、地域連携の研究・実践をして参りました。専門は石灰質ナノ化石というミクロンサイズの微化石です。地球科学的な多角的視点を持ち、学びの場を学校の外に広げられるような力のある教員の育成に全力を尽くしたいと思っております。



教育学部

音楽教育講座

小田 直弥

令和3年4月1日付けで教育学部音楽教育講座に着任しました、小田直弥と申します。専門はピアノで、これまでアンサンブル・ピアニストとして演奏を行って参りました。特に、歌曲やオペラ、合唱など、歌唱を伴う演奏形態を得意としています。前職では産学連携による教育研究プロジェクトの企画・推進等を担当しておりました。東北での生活は初めてで、手探りではありますが、つながりを大切に、教育・研究活動に努めます。



教育学部

教育保健講座

相馬 優樹

岩手県立大学より参りました、教育学部教育保健講座の相馬優樹（そうまゆうき）と申します。専門である公衆衛生学の研究手法の1つである統計学を用いて、健康的な生活を送る秘訣の探索や専門家教育の評価をしております。学校は子どもの健康問題を解決するのに有用なデータであふれております。それらを活用できる体制の整備や、活用できる人材の育成などをとおして、故郷である青森県の健康増進に貢献したいと考えております。



教育学研究科

教職実践専攻

宍倉 慎次

令和3年4月に教職大学院に着任しました。大学時代にお世話になった弘前大学で教鞭を執ることができることを光栄に思うとともに心から感謝しております。これまでの38年間は、英語教師として、また、管理職として青森県内の高等学校に勤務して参りました。今後は、この経験を生かし微力ではございますが、院生と共に学びながら本県教育の充実と発展に尽力する覚悟でおります。皆様、どうぞよろしくお願いたします。



教育学研究科

教職実践専攻

甲田 隆

青森県立青森第二高等養護学校長を定年退職し、令和3年4月に着任しました。特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱虚弱）に勤務し、その後、教育行政を経験する機会をいただきました。本教職大学院では、院生一人一人の多様性を尊重し、理論と実践との往還・融合を通じて、教員に求められる4つの力「自律的発展力」「協働力」「課題探究力」「省察力」のさらなる向上に取り組んでまいります、どうぞよろしくお願いたします。



教育学研究科

教職実践専攻

三和 聖徳

4月に教職大学院に着任いたしました。全く違う環境の中で、戸惑いながら日々の業務をこなしておりますが、反面今までにはなかった発見や驚き、出会いもあり、嬉しさ半分、つらさ半分といったところです。思えば昔（昭和の終わり～平成の初め）、私も本学の教育学部生でした。当時は「古い、暗い、寒い」の教育学部でしたが、今は整備され非常に綺麗で快適な空間となっており、隔世の感があります。どうぞよろしくお願いたします。



保健学研究科

総合リハビリテーション
科学領域

大庭 輝

4月1日付で大学院保健学研究科（医学部心理支援科学科）に着任いたしました。専門は老年臨床心理学で、認知症の人のコミュニケーションや、福祉施設に勤める職員の方々のメンタルヘルスや継続訓練について、心理学的な視点から研究を行っています。教育・研究を通じて青森県の公認心理師の養成及び高齢者の方々の幸福な老いに貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科

地球環境防災学コース

岡崎 淳史

令和3年3月に理工学研究科に着任いたしました岡崎淳史と申します。これまでデータ同化という最適化手法を用いて地球環境の予測・復元に関する研究を行ってきました。今後は、災害に関する研究や予測手法の高度化にも挑戦していきたいと考えています。研究・教育活動を通じて、学生の成長、そして、弘前大学の発展に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科

地球環境防災学コース

高野 智也

2021年3月1日付で理工学研究科に着任しました高野智也（たかのともや）と申します。専門は地震学です。地震学といっても、地震そのものではなく海洋波浪等によって常に励起されている地震波ノイズを用いて地球の内部構造を調べています。教育や講義に関しては不慣れな部分が多いので、これから試行錯誤になりそうですが、学生とともに楽しみながら研究や勉強をできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科

自然エネルギー学コース

松下 洋介

2021年4月に理工学部自然エネルギー学科に着任いたしました。現在、化石資源からの脱却やCO₂排出の削減など、人類はこれまで経験をしたことのない大きな問題に直面しています。この複雑で多岐にわたるエネルギーや環境問題はもはや一分野では解決が不可能であり、先生方のお力を借りながら、これらの問題の解決に貢献できるような教育や研究を実施する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りたく、お願い申し上げます。



国際連携本部

高橋 千代枝

令和3年4月に国際連携本部に着任致しました。専門は日本語教育で、特に、会話分析、大学の日本語プログラム開発と国際化について研究しています。出身は愛知県で、院生時代、中国の大学に3年間勤務し、他に実習などでオーストラリア、香港、ヨーロッパ、国内でも中部、北陸、関西や北海道など、様々なところで世界中の人と出会いました。大学で留学生に日本語を教える教室は、多様な文化背景を持った人と出会う場です。世界では既に国を超えた

人材獲得競争が始まっています。ただ日本語を教えるのではなく、高度な専門知識と日本語力を身に着けた世界で活躍できる人材育成を行い、留学生のみならず日本人学生、大学の国際化にも貢献していきたいと思っています。



令和3年度 弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を令和3年6月9日（水）に事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、福田学長から今年度申請のあった3団体の各出席者に活動助成費採択書が手渡されました。続いて、各団体出席者から日頃の活動内容について紹介がありました。

福田学長からは、「採択された皆さんの団体のように継続的に地域とボランティア活動を通して触れ合っていることは非常に素晴らしいことだと思います。大学における学びは、キャンパスの中における知識の習得だけではなく、キャンパスを飛び出して地域の方と触れ合いボランティア活動を行うこと、これが皆さんを人間的に成長させるはずですので、ぜひ、この取り組みを後輩たちにも受け継いでいただくようお願いします。」と学生の活動に期待する言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出席者から、新入生勧誘の状況説明や、昨年度実施できなかった一部の学外活動が今年度は実施できることが喜ばしいとの感想を聞くことができました。



交付式後の記念撮影

令和3年度 ボランティア活動助成団体

団体名	申請代表者名	所属学部
SaBoTen (サボテン)	野田 あすみ	理工学部
児童文化研究部 KIDS'	早川 天崇	農学生命科学部
僻地教育研究会	阿部 歩果	医学部保健学科



本号は『新学期を迎えて』と題して、新入生の皆さんの素直な声とともに先輩学生と教員からの応援メッセージを特集した。

私も弘前大学に在籍した先輩として、応援メッセージを書き編集後記としたい。

私が弘前大学に入学したのは、三十五年以上も前である。当時は共通一次試験時代（現在のように前期・後期試験はない）であり、基本的に一校を受験するシステムであった。やっとの思いで弘前大学に合格できた私は、入学当初は入試の疲れからか、あまり勉学に励むことができなかった。気がつくとも二年生になっていた。友達の時間割は空白が多いが、私の時間割はほぼ毎日五限までびっしりと埋まっていた。そして、やっと

編集後記

の思いで卒業でき、小学校教員として就職した。

小学校教員の経験と現在の大学教員の二つの職業を通して、大学とはどんなところか改めて考えてみると、ありきたりではあるが「いろいろなことを経験する場」であると思う。

勉強はする（しないと、後で私のように後悔する）、友達とたくさん関わりをもつ、何かしらの社会経験（アルバイトやボランティアなど）をしてみる。もちろん失敗経験も大事。

新入生の皆さん、弘前大学は総合大学ですから、いろいろな見方・考え方をする友人とも出会えることができますよ。そして、卒業、修了まで、いろいろな経験をしてください。ご入学おめでとうございます。

（教育学部 田中）

弘前大学生協オリジナル 英会話講座

エース 「ACE」

【ACE (Active Campus English) とは…】

英語での実用的なコミュニケーション力を身につけることを目的としています。

ACE は、講師がネイティブスピーカー！だから参考書には載っていない表現や活きた英語に触れられるのはもちろんのこと、海外の文化、英語を通して日本のことを知ることもできます。そして何よりもキャンパス内で自分の授業の空き時間に受講ができる！ACE は弘大生のためだけにつくられた講座です。

2021 年度は 217 名の方が受講しています(2021. 5. 1 時点)



【ACE では…】

- ・ACE は週に 1 回 70 分の Lesson で実施。
- ・Lesson 以外に平日(月～金曜) 12:00～12:30 にフリートーク Time を設けています。このフリートークは ACE 受講生であれば誰でもクラス関係なく自由に参加することができます。



ACE は食堂 Horest 入口すぐの右側にあります。

講座を進めるのは講師の Ryan。新型コロナウイルス感染予防として講座の前の検温、消毒、ビニールカーテンの設置、換気等を行っています。

ACE の Lesson は、『英語で話す』ことを大切にしているので、高校のときのような座学ではありません。動きのあるワークやグループワークや、自分達で考えて発言する場面もあります。

はじめは言葉が出て来ないこともあると思いますが、この講座を受講しながら、伝えようとするのが大切だということを学んでもらえたら嬉しいです。



『ACE は挑戦の場』です。

1 年生のうちに英語を話すことに慣れて、海外や外国人に対するハードルを下げ視野を広げることで、この先の大学生活がもっと豊かなものになると思います。

今はまだ海外へ行き、現地に行ってこそ得られる体験はできませんが、いけるようになったときのためにも、学内で受講できる「ACE」をうまく活用し、英語力を身に付けて欲しいです。

SHAREA 店 ACE 担当 小島優子 (写真左)



弘前大学 検索

トップページ▶弘前大学について▶広報▶刊行物・広報誌▶学園だより
バックナンバーをご覧ください。

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。
弘前大学学務部学生課 e-mail:jm3113@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学
 学園だより

vol.201 / 2021年6月発行 題字：福田眞作 学長
編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会
委員長：高瀬 雅弘（教育委員会）
委員：林 彦櫻（人文社会科学部）
田中 拓郎（教育学部）
丹治 邦和（医学研究科）
則包 和也（保健学研究科）
江居 宏美（理工学研究科）
千田 峰生（農学生命科学部）
高松 達典（学生課）
坂本 桃子（学生課）

印刷：コロニー印刷